

---

# 後ろの正面 だ あ れ

篠原

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

後ろの正面 だ あれ

### 【Zコード】

N8153D

### 【作者名】

篠原

### 【あらすじ】

ある日数人の女学生が罰掃除をくらいい、しぶしぶ行っていた時・・・  
・ある事件が起こる・・・

か～じめか～じめ

「お前、キモイんだよ…」

「やつそーー隆也くんに話しかけてんじやねえっつーの…」

「てめえみてるとイライラすんだよ…」

か～じのな～かのとつは～

「う、うめッげほッ…わ、私…ツ…」

こつこつでやる

「おこ、鶴田。今日、わかつてんだろ？な？」

「う、うん…」

「ちや～んと来ないと、明日ひでえから」

「わかつてる…」

夜明けの晩に

「あーやつと、罰掃除終つた」

「何いつてんのタッキ、先生がいたときしかやつてなかつたクセに

」

「やつこり//ズキだつてやつじやん」

「まあね～。鶴田ちやんが手伝つてくれたおかげでね

「わい、帰るか」

「鶴田ちやーん、掃除道具わつと片付けておいてねー」

「う、うん…」

## 鶴と亀がすべつた

「何が？」

アーティシス

卷之二

ひさこ

セヨ! 大丈夫! 」

「あたたた。・・・うん。なんとか」

卷之三

「・・・あれ？ そういえば鶴田・・・は・・・？」

そう一人の女子が言い終わる前に、みんなの視線が一つに集まる。そこには

「鶴・・・田・・・?」

赤い海に沈み、じちらをこの世のものとは思えないほどの形相で睨んできている鶴田の姿だった。

その日の事件は、罰掃除の帰り道一人の女学生が”偶然”階段から足をすべらせ、たまたま打ち所悪く死亡してしまった。と世間に報じられた・・・が

「真佐子を返してッ！…どつせ貴方達が突き落としたんでしょ！」  
「…？」

「鶴田さん！落ち着いてください！アレは事故です……」

「嘘つかないで……真佐子いつも怪我して帰ってくる……最初はあんなに楽しそうに学校に行っていたのに2学期になつてから、死にそうな顔で学校にいってたのよ！？絶対何かあつたにきまつてるわ……」

「それは……」

「いいから、鶴田罰掃除をしてたつていつ子を呼んで……」

「それはプライバシーの関係上　」

真佐子・・・鶴田真佐子の親は無論納得した様子はなく、学校まで押し寄せてきたのだった。

それをかぎつけたマスクも面白おかしく報道し始め、警察や学校側になにか問題があつたのではないかと大騒ぎ。

もちろん、そのとき一緒に罰掃除をしていたものたちは、そんなマスクの餌食にならまいと一步も家からでれない状況になつていた。

「でもー。つたぐ、鶴田の親もメンドクサイことしてくれたよねー

『『そうそう。おかげで外出れねえってのー！』

「まったくだよ。あーだりー。夜中しかでれねえとかマジありえねー

『ほんとだよ。・・・あ、そろそろ親帰つてぐるから切るね？』

『ん。じゃあね～』

『じゃ！ばいばい』

ガチャ

「はあ、お腹すいたな・・・コンビニでも行って来るか。ちゅうどいい時間だし」

ウイーン・・・　『ありがとうございましたー』

「うつ、さつむー。もう秋かー」

「ん? 誰だろ?  
はーい?」

「んにちは」

卷之三

「どういっても、タジキ君？」

「私よ。  
忘れた?

「ねえと、悪戯なりやめてくんない？ウザイんですね」

「お忘れなき二たのね 懸ししわ

『いい加減にしろ、ついてんだよ!! アンタ誰!?』

「は？」

『かごめかごめ かごのなへかのとりは いついつであつて』

『後ろの正面だあれ?』

しばらくして、とある学校のいじめをやつていたという女子達が先生や警察などに名乗りり上げ、大人しく“あの日”起こった事を白状した。

それは一つの事件かぎりかけとなつたのじやないかとマスコミは報道していた。

その事件とは・・・いじめの主犯格であつた亀子が鶴田真佐子とまつたく同じような死に方をしたのだというもので、実は鶴田の親が殺したのではないかという意見もあつたが、その日鶴田夫婦は警察署にずっといたので容疑者からはずされた。

しかし警察はなおも事件として捜査をしてくる。

そのわけとは・・・

その口、亀子の携帯には何者かと話していた記録と・・・

背中立すべりと自のついた手の跡がみつかったのだ

(後書き)

長くて省略せざるを得ないところを、ホラーを書こうと思いつつ挫折した作品ですが、これからももつと頑張りと想つてゐるので、温かい日で見てやつてください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8153d/>

---

後ろの正面 だあれ

2010年12月14日20時00分発行